

小松島港湾・空港整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども小松島港湾・空港整備事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



「暮らしや経済を支え続ける」 複合一貫輸送ターミナル整備の事業効果

徳島小松島港は東京・北九州行きのフェリーが毎日就航、東京と四国を結ぶ唯一のフェリー航路として、日本の経済活動に重要な役割を担っています。また、トレーラーのシャーシのみを海上輸送する「無人航送」へのモダルシフトが進んでおり、ドライバー不足やCO2排出削減への対策にも寄与しています。さらに、2016年に供用開始した岸壁(水深8.5m)は耐震性を有しており、地震発生後の物流機能を確保します。現在は、より安全な運航のため、防波堤の改良を行っています。



フェリーに積み込まれる貨物車両



改良が進む防波堤



「きれいな海を未来へ」 海洋環境整備事業の推進

当事務所所有の海洋環境整備船「みずき」は、海面に浮遊するゴミや船舶事故等で流出した油を回収することで、航行船舶の安全確保や海洋環境の保全のため、日々活躍しています。また、非常時の対応として東京湾での軽石漂流対策支援など緊急的に行っております。そのほかにも海洋環境の大切さを伝えるため、地域の学校に向けて「出前講座」を行っています。

【目標】 出前講座 2022年度:4回/年 → 2030年度:4回以上/年



浮遊ゴミ回収状況



小学生を対象とした出前講座の様子



「女性活躍に向けた活動を推進」 現場見学会や安全パトロールへの女性職員参加

小松島港湾・空港整備事務所では、現場見学会や安全パトロールに女性職員が積極的に参加しています。これらの活動を通じて、職員の技術力向上のみならず、女性目線を活かしたより良い現場環境作りに寄与するなどの取組を推進しています。

【目標】 女性職員参加 2022年度:5回/年 → 2030年度:5回以上/年



安全パトロールへの参加



工事関係者との協議への参加

高松港湾・空港整備事務所におけるSDGsの取組について

高松港湾・空港整備事務所は多くの関係者と連携・協力し、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け、以下の取組をはじめとする各種取組を推進して参ります。



香川と世界をつなぎ、地域産業の持続的成長に寄与する港湾整備の推進

高松港は定期フェリーが毎日運航、香川から神戸を経て全国・世界とつながっており、県内はもとより四国に立地する企業の持続的成長に重要な役割を担っています。また、現在整備中である岸壁(水深7.5m)は耐震性を備えており、物流の継続性を確保する観点からも、早期供用を目指して取組を推進してまいります。



現状利用



完成イメージ

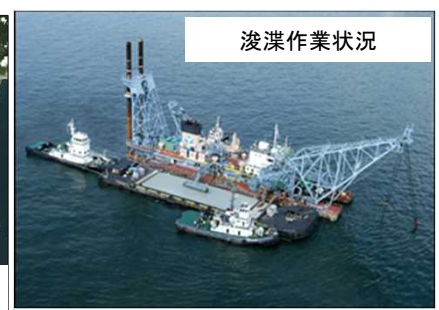


海外と国内をつなぐ海上交通の要衝である、開発保全航路の航行安全性の確保

備讃瀬戸航路は瀬戸内海における海上交通の要衝。瀬戸内海沿岸で経済活動を行う企業の国際海上輸送及び国内海上輸送を担う船舶の航行安全性、効率性を支える重要な役割を果たしています。そのために、開発保全航路の機能を確保するための保全を行っています。



開発保全航路



浚渫作業状況



きれいな海を未来につなぐ、海洋環境整備事業の推進

海面に浮遊するごみや流木は船舶の安全な航行に支障となります。また、海難事故等による大量の油流出は生物への影響も甚大です。当事務所配備の海洋環境整備船「美讃」は、これらの回収を行っています。また、海洋環境の大切さを伝えるため、学校や地域のイベントで「出前講座」を行っています。



海洋ゴミ回収状況



出前講座の様子

【目標】 出前講座 2022年度:4回/年を継続

松山港湾・空港整備事務所におけるSDGsの取組について

松山港湾・空港整備事務所は多くの関係者と連携・協力し、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け、以下の取組をはじめとする各種施策を推進して参ります。



愛媛と世界をつなぎ、地域産業の持続的成長に寄与する港湾整備の推進

東予港は定期フェリーが毎日運航、愛媛から大阪を経て全国・世界とつながっており、県内はもとより四国・東九州に立地する企業の持続的成長に重要な役割を担っています。2018年に供用開始した岸壁(水深7.5m)は耐震性を備えており、物流の継続性を確保しています。現在は、より安全な運航のため、航路の拡幅を行っています。



きれいな海を未来につなぐ、海洋環境整備事業の推進

海面に浮遊するごみや流木は船舶の安全な航行に支障となります。また、海難事故等による大量の油流出は生物への影響も甚大です。当事務所配備の海洋環境整備船「いしづち」は、これらの回収を行っています。また、海洋環境の大切さを伝えるため、学校や地域のイベントで「出前講座」を行っています。
【目標】 出前講座 2022年度:4回/年 → 2030年度:4回以上/年



多様な人が港でつながる、「みなとオアシス」のさらなる推進

愛媛県内には、6つの「みなとオアシス」があります。運営団体、地元自治体、地域の皆様とともに、誰もが気軽に訪れ、また来たいと思われるような「みなと」となるよう支援していきます。また、「みなとオアシス」間の連携を推進して参ります。

【目標】 各団体支援 2022年度:2回/年 → 2030年度:2回以上/年



高知港湾・空港整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども高知港湾・空港整備事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献する共に、管内の港湾・海岸整備と各種振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



地域経済の持続的成長を支える港湾整備の推進

高知港三里地区は船舶の大型化に対応するため、外洋に面した現在の箇所にて1988年より整備を開始し1998年に一部供用を開始しています。同港は背後の高知市と海外や国内とを結ぶ物流の玄関口であり、主たる貨物である石灰石は国内の鉄鋼生産に欠かせない原料で、地域経済の持続的な発展に寄与しています。現在、港内静穏度の確保に向けて、防波堤(南)の延伸整備を引き続き実施中です。



みらいに繋げる海域環境整備の推進

須崎港においては、カーボンニュートラルや海域環境保全の一環として、藻場育成を促す環境共生型消波ブロックを採用しています。2015年からは鉄鋼スラグを活用した藻場造成ユニットを、防波堤の粘り強い構造への改良にて創出された浅場へ設置する取組みを実施中です。引き続き、藻場造成と産業副産物の有効利用の検討を進めることで、カーボンニュートラルに資する取組を推進させていきます。

西防波堤基部

東防波堤基部

基部設置状況

コンクリート 水和固化体

設置した試験プレート
上：コンクリート
下：水和固化体(サイズ) 30cm×50cm×4cm

天然礁設置状況

ウミワチノミル属
南方系ホンダワラ類

テングサ属



三重防護事業の推進による安心安全の確保

高知港の立地する高知市は、県全体の約47%の人口が集中し、臨海部周辺には、行政・防災関係機関や国内トップシェアを誇る産業などが多数立地しています。近い将来、来襲が予測されている津波から地域の安全安心を守ると共に、地場産業の持続的成長を確保することを目的として、三重防護の方針の下、海岸保全施設の改良等を高知県と共同で進めています。

③第3ライン 浦戸湾地区 内部護岸等

②第2ライン 湾口地区 津波防波堤、外縁部堤防等

①第1ライン 第一線防波堤

(整備前)

(整備後)

高松技調では、以下の3項目を柱とするSDGs(持続可能な開発目標)への取り組みを通じて、安全・安心・豊かな四国づくりに貢献していきます。

気候変動の影響を踏まえた海象条件への対応



近年、気候変動の影響と思われる高潮・高波によって、港湾施設の被災等の可能性が高まっています。そのため、気候変動の影響を的確に把握し、インフラ整備を確実にを行うため、管内の波高計等観測機器の保守点検を確実に実施し、最新の情報を収集していきます。また設計波を定期的に見直し、気候変動に伴う高潮・高波等に対応していきます。



台風による防波堤の越波
(写真提供：高松港湾・空港整備事務所)

新技術を活用した働き方改革、生産性向上



公共工事等における新技術活用システム(NETIS)を中核とする港湾分野における新技術の活用促進への支援、ROV等を活用した港湾施設の維持管理の効率化等への取り組みを通じ、働き方改革、生産性向上に取り組んでいきます。

◆ Before



小型船等による施設点検
(写真提供：港湾空港技術研究所)

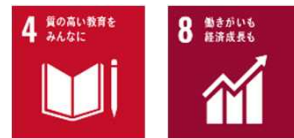
◆ After



ROV等を活用した施設点検



知識や技術の習得と伝承



最新の技術について情報の収集や共有を図り、職員の知識や技術の習得と伝承に取り組んでいきます。また、地震や液状化の仕組みなど防災に関する知識の啓発や情報発信に取り組んでいきます。

【目標】2022年度：8回／年→2030年度：10回／年



液状化実験の様子



学習会の様子